

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■83■

人生で今年ほど紅葉狩りを楽しんだことはない。いや、これまではほとんど行っていないという方が正しい。

東京に住んでいると、渋滞を想像するだけでおっくうになる。その点、群馬には少し車を走らせるだけでたり着ける名所が多くあり、しかも標高の違いなどから見頃が少しずつずれている。群馬に住むこの機会を生かさない手はない。

私は県内各所で入手できる「ぐんま観光マップ」の愛用者だが、紅葉狩りでも大活躍だ。紅葉の名所には地図上で紅葉印が付き、紅葉カレンダーもある。尾瀬ヶ原の草紅葉

利根沼田のリンゴ

紅葉狩りのお土産

つた尻焼温泉やトロッコ列車から見た渡良瀬渓谷も忘れることはないだろう。

特産品を見つけるの

に始まり、マップとにらめっこしながら各地を回った。六合の白砂渓谷ラインのように、たまたま通つたら息をのむ景色が次々と展開し、後で名所と知った

も楽しんだ。沼田やみなかみでは、街道沿いにリンゴの直売所を多く見掛け、店頭に並ぶリンゴは色鮮やか。フランスのマルシェ（市場）でもリンゴが旬に

も楽しんだ。沼田やみなかみでは、街道沿いにリンゴの直売所を多く見掛け、店頭に並ぶリンゴは色鮮やか。フランスのマルシェ（市場）でもリンゴが旬に

「鶴」の字は、上毛かるたの「つる舞う形の群馬県」から。探すのが遅れた今年

場所もある。そんな発見も楽しい。

同じ紅葉でも場所による個性は驚くほど。

草木の種類、山・湿原・渓谷・湖といった口

ケーション、神社や温泉、橋、鉄道などが一

体となって記憶に刻み

込まれる。紅葉の中にあらずむめがね橋は静謐な美しさをたたえていたし、紅葉の中で入

なると専門店が登場し、季節を感じさせてくれるが、何だか似ている。片言のフランス語でやりとりしながらリンゴを選ぶ楽しみを思い出しながら、群馬

日本は農産物の品種改良を得意にすると言われるが、リンゴの甘さもその成果だ。

は味わえなさそうだが、来年の楽しみが一つ増えた。甘いのはもちろん、「鶴」の字にふさわしい優雅な味だろうかと、今年は想像して楽しんでいる。



渡辺真吾（わたなべ・しんご） 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米シシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。